

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

「日本に挑戦と変化を」 吹田発のIT企業が挑戦

吹田市に本社機能を置くITベンチャー企業のChatWork株式会社が、新たな挑戦を始めた。5月21日には神戸市の谷上(たにがみ)駅にコラボレーションスペース「.me(ドットミー)」をオープン。挑戦と変化を生み出すコミュニティ形成プロジェクト、「谷上プロジェクト」が動き出した。



人・モノ・アイデアが集まる場所を目指す「.me」は駅直結。駅構内にカフェ「ドットミーキッチン」をオープン予定で、交流拠点としての機能を充実させていく。



ChatWork株式会社

2000年創業。日本最大級のビジネスチャット「チャットワーク」を主力事業として展開。民間企業、教育機関、官公庁など178,000社以上に導入され(2018年5月末時点)、シリコンバレーや台湾など海外にも展開している。

出る杭を伸ばす 挑戦と変化をもたらす拠点に

きっかけは、前社長の山本敏行さんが、現地法人設立のため昨年まで5年間シリコンバレーに住んでいたこと。そこには最先端を走る企業が集まり、いたるところでイベントやプレゼンテーションが行われ、民間主導で「挑戦と変化」が生まれていた。「日本では出る杭は打たれ、失敗できない。これでは革新的なものが生まれません。失敗を恐れず挑戦できる環境を日本に作りたい」。そう考えていた矢先、起業を目指してい

たメガバンク出身の森脇暉さんと出会い、意気投合する。山本さんは「日本各地から起業や新事業に熱量の高い人がたくさん集まって化学反応を起こし、新しいことに挑戦できるような拠点を作ろう」と森脇さんとともに行動を起こす。

目をつけたのが、神戸市の谷上だ。海と山に囲まれた自然豊かな地だが、新神戸駅の隣駅で国内外からのアクセスも良い。森脇さんは「変化の余地があると感じた」。拠点づくりの資金集めには、神戸市のふるさと納税を掛け合わせたクラウドファンディングを活用。多くの人の共感を呼び、当初の目標金額1,500万円を大きく上回る約2,670万円が集まった。

谷上プロジェクトの活動第一弾としてオープンした「.me」は、北神急行電鉄・神戸電鉄「谷上駅」直結。電源の使えるカフェとしての機能はもちろん、会議室やプロジェクト、モニターを備え、プレゼンや

交流会ができる環境が整っている。ベンチャー企業が本社登記することも可能だ。

クラウドファンディング

インターネット経由で不特定多数の人から事業などの資金提供・協力を募ること。群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語。ふるさと納税型クラウドファンディングの場合、寄付金は一旦自治体へのふるさと納税として扱われるが、最終的に手数料を差し引いた全額がプロジェクトにわたる。

多領域交流で 地方から日本を変えていく

ChatWork株式会社が掲げる谷上プロジェクトの目的は、ITを活用して地域や社会の課題解決を行うこと。「.me」に集まった人がディスカッションをして、新しいアイデアを得て地方へ散り、各地でプロジェクトを始動する。同社は、これを日本や世界を変える成功モデルとして、各地へ広げていくことを目指している。同社の広報担当者

は「民間企業が先導してイノベーションを起こし続けるサイクルを日本で作りたい。同時に、他領域のチェンジメーカーや多様な人の知恵が連携、融合することで、自社でも新たなイノベーションを生み出すタネを育てたいと考えています」と話す。

今後は、交流会などのイベントを通して多種多様なコミュニティを作っていく。「士業の方や起業家育成に理解のある企業の社長も、サポートに名乗りを上げて来ています。この場所をハブとして、地方から日本に挑戦と変化を巻き起こしたい」と森脇さん。今後の活動に期待がかかる。



谷上プロジェクト実行委員会の主幹メンバー、森脇暉さん。故郷の山口県下関市の活性化を目指す。すでに谷上に集まったメンバーを巻き込んで下関での活動を始めており、下関市長とのつながりもできたという。

増加する大阪の外国人観光客 国際都市としての ポテンシャルと課題

訪日客の大阪人気は近年、急上昇している。特にアジア圏の国々からの観光客が増加し、伸び率は東京をも上回る。その背景には何があるのか、大阪観光局に取材した。

過去5年で来阪外国人が急増 万博エリアや箕面の滝も人気

大阪観光局調べによると、2012年には203万人だった来阪訪日客数は、2017年には1,111万人に達し、5.4倍に。全国統計の3.4倍を大きく上回っている。また、米マスターカードが2017年9月に発表した「2017年世界渡航先ランキング」の「急成長渡航先ランキング」で大阪は2年連続1位になった。2013年以降のビザ緩和や関西国際空港の便数増加が影響していると見られている。

大阪観光局が昨年、関空で行なった2017年の外国人動向調査によると、人気の高いスポットは道頓堀や大阪城など市内エリアに集中するが、満足度の高さでは「箕面の滝」がUSJに次いで2位。訪れた人の78%が「おすすめしたい」と答えている。また、エキスポシティのオープン以来、特に万博公園エリアの観光客数が急上昇しているという。買い物や目的に来阪する訪日客が多いため、多彩な店が連なるショッピングモールがあり、観覧車などのエンターテインメント、さらに太陽の塔というフオトスポットもあるこのエリアは魅力が高い。今年4月には



「走る・食べる・観光する」を一度に楽しめる、タイ発のユニークなランニングフェスティバルが大阪で9月30日に日本初開催。



指定区間の電車・バス乗り放題と主要観光施設の利用券が付いた「大阪周遊パス」に万博記念公園版が発売され、今後も観光客の増加が予想される。

住民と観光客が win-winになれる観光客対策を

訪日客増加の最大のメリットは、経済効果だ。大阪観光局が関空での対面式アンケート調査をもとに算出した2017年の来阪インバウンドの総消費額は1兆1,852億円。2014年の2,661億円と比べると約4倍に達している。同観光局は、2020年の訪日客数1,300万人達成を目指し、夜間観光や多様な観光コンテンツの発掘でさらなる誘

致と消費拡大を図るといふ。しかし、メリットばかりとはいえない。観光客のマナーやトラブルは度々問題にもなっている。同観光局の担当者は、「外国人観光客にとっても、日本のルールや駅周辺の案内サインが分かりにくいなどの課題がある。様々な側面から根本的な問題を見極める必要がある」と話す。

来年以降は、G20サミット首脳会議やラグビーW杯、関西ワールドマスターズなど、世界的なイベントが大阪で次々に開催される。ますます大阪に注目が集まることは間違いなさだろう。

- G20サミット首脳会議 2019年6月に大阪で日本初開催。主要国首脳が集まり経済や国際課題について議論する。
- ラグビーワールドカップ 2019年9月～11月に東大阪市を含む国内12都市で開催。アジア初開催。
- 関西ワールドマスターズ 4年に1度開催される、概ね30歳以上の成人一般アスリートの生涯スポーツの世界大会。2021年5月に関西圏で日本初開催となる。